

分岐工事について



令和 8 年 2 月
福島市上下水道局給水課
給水検査係

- (1) 分岐工事の留意事項について
- (2) 分岐工事等の写真の撮り方について
- (3) ヒンジサドルの対応について
- (4) ロケーティングワイヤー据付における留意点
- (5) 他の埋設物からの離隔について
- (6) 止水栓止(制水弁止)工事の施工について
- (7) 配水管状況等調査票について



(1) 分岐工事の留意事項

- ① 分水栓をセットし、水圧0.98MPaで2分以上保持し、漏水が無いことを確認したうえで穿孔すること。(※穿孔時は必ず有圧管で施工すること)
- ② 分岐穿孔、配管作業を行う者は、必ず「技能を有する者(実務経験者)」とする。
- ③ 分岐工事における断水工事の場合は、事前に操作バルブ(仕切弁、排水弁など)の開閉操作が可能なことを必ず確認すること。

※確認事項

操作バルブや排水施設(排水流末経路も含む)の位置を確認すること。

操作バルブの深さや弁筐内に泥や水などが無いのを確認すること。

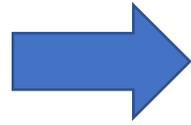
- ④ 分岐穿孔し、出水を確認するときは、濁水の原因となるのでバルブはゆっくり開閉すること。
- ⑤ 穿孔を行う前に穿孔機ドリルの締め付けが完全に稼動することを必ず確認すること。
- ⑥ 万が一、穿孔に失敗した場合は、速やかに給水検査係に連絡し、その指示に従うこと。
- ⑦ 工事の予定は、営業日3日前までに連絡(電話または窓口)すること。(電話受付は、午前9時～12時、午後1時～4時)
- ⑧ 予定通り工事を実施する場合は、当日の開始と終了の連絡をすること。工事日程の変更があった場合も連絡すること。

(2) 分岐工事等の写真の撮り方について

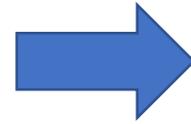
- ① 着工前に分岐箇所を清掃中、清掃後の写真。



着工前



清掃中



清掃後

- ② 他の分岐、異形管及びその他の埋設物から30cm以上の離隔が確認できる写真。(他の水道管と縦断する場合も)



- ③ サドル取付状況写真。
- ④ 片締め及び水平器を当て傾きが無いことを確認できる写真。

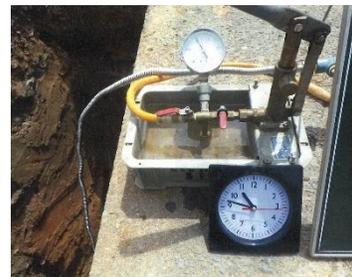


③ 取付状況



④ 水平確認

- ⑤ 穿孔前の水圧テスト状況の写真。(テストポンプとの接続写真と時間経過がわかる時計を入れること)



⑥ 穿孔状況(管種・口径及び分岐口径を記入)が確認できる写真。

⑦ 穿孔後の刃の状況(PE管・PP管・VP管等)



⑥ 穿孔状況

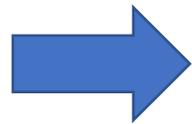


⑦ 穿孔後の刃の状況(VP管)

⑧ コア挿入状況(穿孔時コアが現地にあることが確認できる写真及び、挿入機により施工されているか確認できる)写真。



施工前

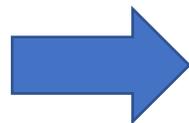


施工後

⑨ 防食フィルムの施工前及び施工後の確認できる写真。



施工前

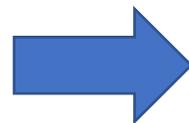


施工後

⑩ ガス管と離隔が確保できない場合、耐磨版($t=6\text{mm}$ もしくは、 $t=2\text{mm}$ を3重巻き)の設置前、設置後の写真。



設置前



設置後

⑪ 施工写真は、写真台帳に整理して提出すること。

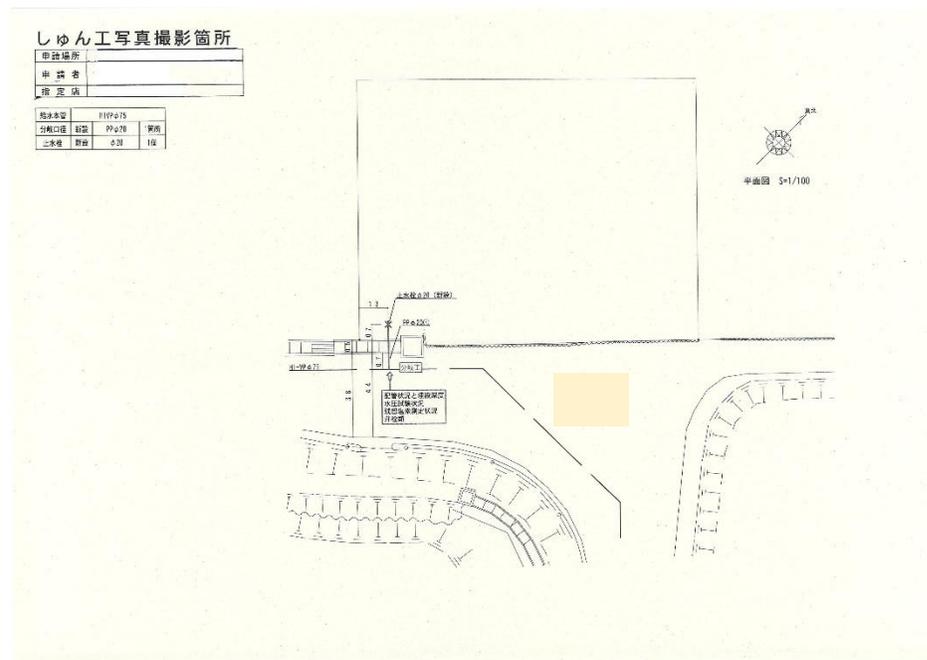
令和 年度

しゅん工写真

撮影者

受付番号	
設置場所	
申込者氏名	
工事事業者名	
主任技術者名	

表紙(鏡)



写真撮影箇所



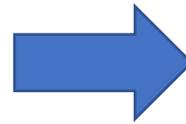
写真台帳 (3枚貼り付け)

※サイズはA4版両面印刷



(3) ヒンジサドルの対応について

配水管に取付けられている分水栓が「ヒンジサドル」の場合は、漏水の原因となりますので、必ずサドル付分水栓へ交換するようにお願い致します。

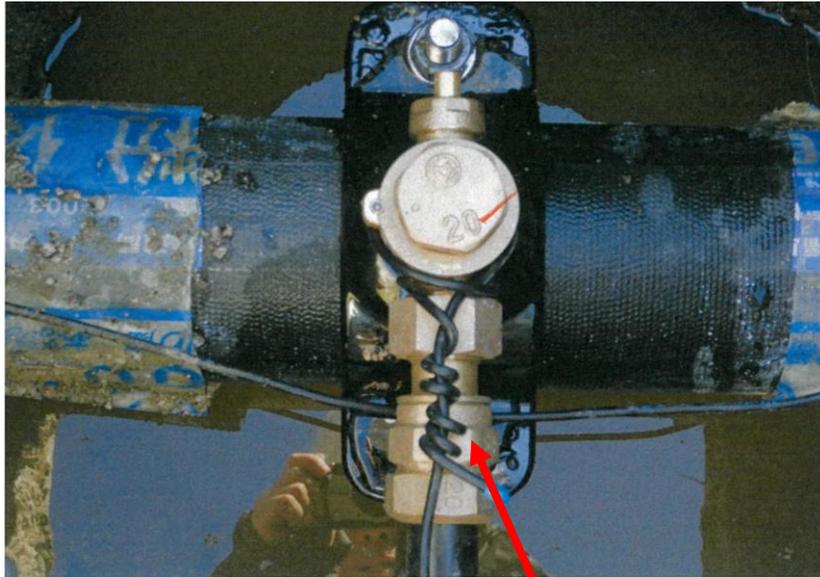


※ヒンジサドル

片方ヒンジ、片方ボルトで締め付け、本管に取付ける構造となっており、ヒンジ部分が腐食しやすく、漏水の原因となっている。

(4) ロケーティングワイヤー据付における留意点

<悪い例>

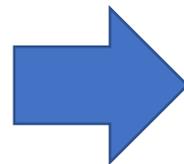


配水管から給水管を分岐する場合、配水管頂部に沿って管探知用のロケーティングワイヤーが配線されているときは、必ず配水管側と給水管側のロケーティングワイヤーを結ぶように施工して下さい。

配水管と給水管のロケーティングワイヤーが結ばれていない

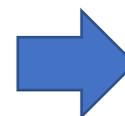
(5) 他の埋設物からの離隔について

配水管への取付口の位置は、他の給水装置の取付口から30センチメートル以上離れていること。



区分	離隔
配水管に継手部がある場合	配水管継手部の端面から取付部(サドル分水栓等)の端面までの最小離隔として30cm以上確保すること。
他の埋設物や構造物と給水装置が並行する場合	それぞれの外面と外面との最小離隔として30cm以上確保すること。
他の埋設物や構造物と給水装置が交差する場合	それぞれの外面と外面との最小離隔として30cm以上確保すること。

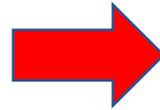
※やむを得ず30cm以上の離隔を確保できない場合は、耐磨版を挟むこと。(t=6mmもしくは、t=2mmを3重巻き)



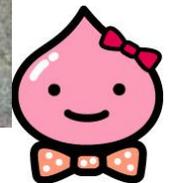
(6) 止水栓止(制水弁止)工事の施工について

止水栓止、制水弁止、給水本管工事等の施工で、給水管をGLより延ばしてある場合がありますが、品質管理のため、今後は取水確認及び残留塩素測定後に給水管を地中へ埋設するようにして下さい。

変更前



変更後



(7) 配水管状況等調査票の提出について

分岐工事・分岐止工事に伴う既設配水管状況等調査(現場記録票)

調査箇所基本情報			
給水検査位置:	福岡市	町・字	地内
分岐止口	平成 年 月 日 (月・火・水・金・土・日) 時 分	天気	受付番号
連絡区分	<input type="checkbox"/> 県道 <input type="checkbox"/> 市道 <input type="checkbox"/> その他	戸番別番号	工事実施者名 主任技師名
分岐配水管の埋設状況調査結果			
調査項目	確認情報 (該当するものを○で囲み、レ点でチェックを行う。または埋設を記入する。)		
1 管種	種 DIP、DIP-B、VP、PP、SP、GP、CIP、その他、不明(写真判断)		
2 呼び径(口径)	50mm、75mm、100mm、125mm、150mm、200mm、250mm、300mm、350mm、400mm、450mm、それ以上、mm		
3 継手形式	出現せず、A、E、T、NS、8Ⅱ、GX、TS、RR、その他、不明(写真判断)		
4 外面防食	ポリスリーブあり、ポリスリーブなし(樹脂管や金属管チェック)、その他防食あり		
5 配水管腐食状況	腐食なし、表面発錆のみ、一部肉厚なし、広範囲で肉厚なし、対象外(VP、FPは対象外)、該当なし		
6 継手腐食状況	確認不能、腐食なし、表面発錆のみ、一部肉厚なし、広範囲で肉厚なし		
7 配水管周囲埋戻し土種別	川砂、良質土、その他		
8 給水管埋設地山種別	砂質土、粘性土、レキ質土、軟岩、その他		
9 地山水分	乾燥している、湿っている、にじみ出ている、湧き水で水替が必要		
10 埋設位置	歩道、車道、私道、里道、その他		
11 埋設深度(m)	m(少数第3位を四捨五入 1.245m⇒1.25m)		
12 管布設年度	年度確認できず(明示テープに年度記載なし)、西暦(年)、和暦(昭和・平成 年)		
13 写真による記録	写真撮影箇所	撮影上の留意点	
	<input type="checkbox"/> ①配水管出現状況(全線) 埋設完了後、ポリスリーブ設置を制がす前に管周りの埋戻し土種が判別できるよう配水管掘削方向に全線を撮影。他設備の占有物がある場合はその占有物も撮影する。 <input type="checkbox"/> ②管外面腐食状況(近景) 配水管表面を露出後、分水性確認後に外面腐食状況をアップで撮影する。 <input type="checkbox"/> ③継手部分状況(近景) 掘削箇所にて継手が露出した場合、継手の形状やボルト・ナットの腐食状況が確認できる近景写真を撮影する。 <input type="checkbox"/> ④掘削地山状況(近景) 掘削箇所の配水管掘削方向の在来地山の近景写真を撮影する。	番号は撮影、撮影項目の番号で記入。また、矢印は撮影方向を意味する。	
	配水管掘削:例		

- 現在、32件の提出を頂き御礼申し上げます。
- 今後の水道管更新計画のデータベースとして活用しますので、できる限りのご協力をお願い致します。

※提出書類
現場記録票、現況写真、戸番図、位置図

